

「高松地区かわまちづくり」

基本構想（素案）

2022 年度（令和 4 年度）11 月

高 崎 市

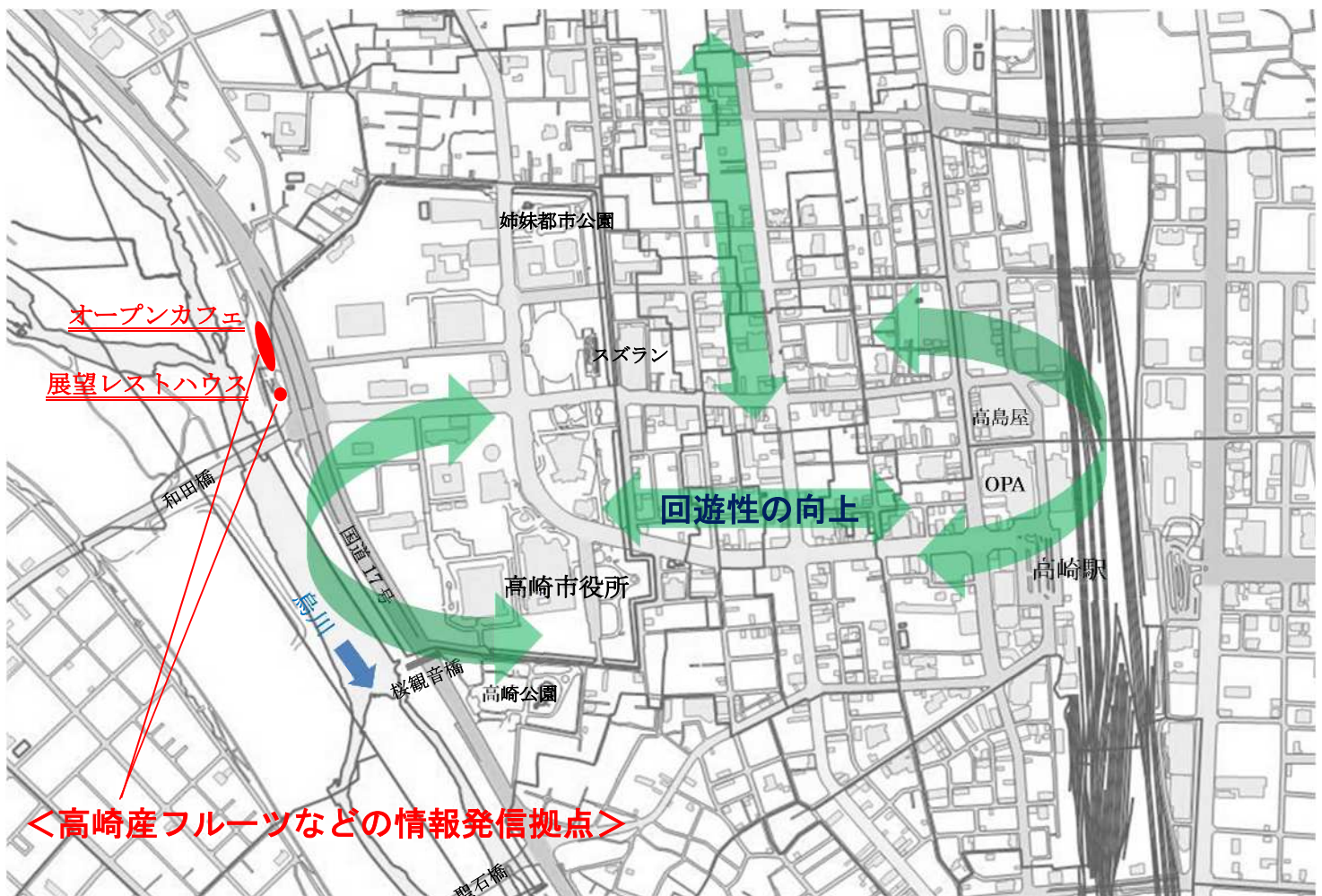
はじめに

烏川は、高崎市の中心市街地と近接しているため多くの利用者が見込まれる。また、国道17号は群馬県を縦断し、東京と新潟を結ぶ物流や観光、さらには生活を支える主要な道路であるため交通量も多い。国道17号高松立体事業に伴う切り直し道路の跡地に公園、水辺拠点を整備することにより、地元住人と国道17号の利用による広域的な利用者の交流が生まれ、地域活性化に貢献できると考えられる。また、利用者を水際に導くことで、身近な水辺として河川にふれあい、水辺環境に関心を持つことで水辺環境への啓蒙に役立つと考えられる。

加えて左岸エリアでは、新たに展望レストハウスの整備とオープンカフェを実施することにより水辺の魅力や利便性を向上させ、中心市街地との連携強化を図るとともに、高崎産フルーツなどの農産物や高崎の食文化の更なるブランド化の推進のため、「高松地区かわまちづくり」エリアからそれらを県内外へ大いにPRし、展望レストハウスがその拠点施設として機能するよう整備・展開していくことで、まちなかの回遊性の向上が図られることにより来訪者の増加が期待される。

【目的】

- ・高崎産フルーツなどを主とする展望レストハウスの整備とオープンカフェを実施することにより、水辺の魅力や利便性を向上させ、中心市街地との連携強化を図るとともに、高崎産フルーツなど高崎の食文化の更なるブランド化の推進のため、「高松地区かわまちづくり」エリアからそれらを県内外へ大いにPRし、展望レストハウスがその拠点施設として機能するよう整備・展開していくことを目的とする。



1 「高松地区かわまちづくり」エリア 建設に向けて

(1) かわまちづくりとは

かわまちづくりとは、地域が持つ「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、地域活性や観光振興などを目的に市町村や民間事業者、地域住民等と河川管理者が各々の取組みを連携することにより「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間を形成し、河川空間を活かして地域の賑わい創出を目指す取り組みです。

(2) 上位計画における位置づけ

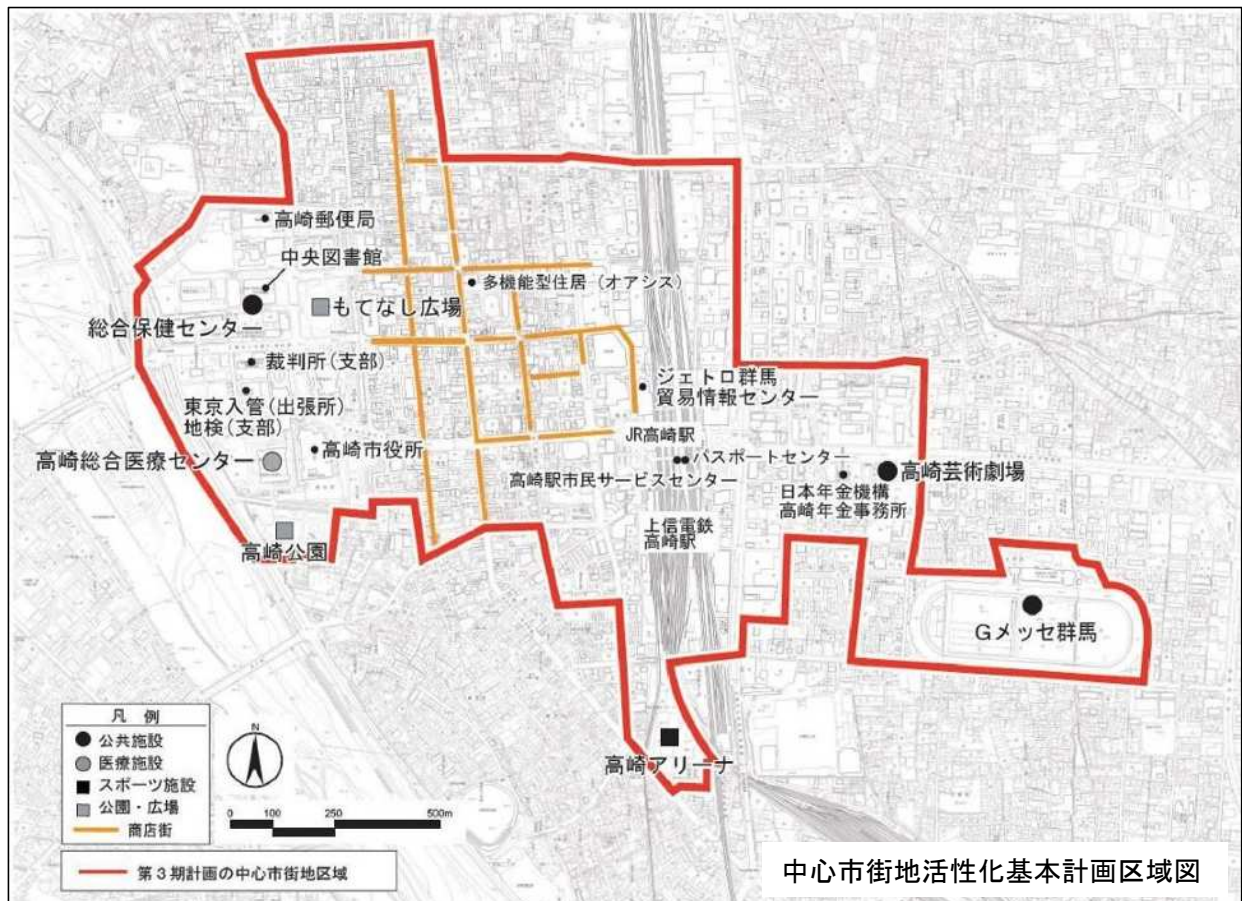
① 【高崎市第6次総合計画】策定年次:平成30年度 目標年次:令和9年度

- ・「緑豊かで快適な空間の創出」
生き物の回廊や、水循環の基盤となる大きな河川や身近な河川の緑地の保全・整備と、道路の緑化を進め、水と緑のネットワークを形成する。
- ・「農林業の振興」
地域ごとに多種多様な農畜産物が生産され、加工品づくりなども盛んに行われており、高崎産農畜産物のブランド力向上や農産物等の販売・PR活動に取り組む。
- ・「飲食業の活性化支援」
魅力ある食文化(「パスタのまち高崎」など)を広く発信し、全国に高崎の食の魅力を広めていく。

② 【中心市街地活性化基本計画】策定年次:令和2年度 目標年次:令和6年度

○基本理念

- ・高崎の活力と新しい文化を創造・発信する“賑わい・交流・文化都心”
まちづくりの継続性を確保しながら、広域からの来訪者(交流人口)の増加に取り組むことにより、中心市街地の活性化に向け効果的に繋げ、高崎市のさらなる都市発展を牽引する中心市街地の形成を目指す。→展望レストハウス等の整備によるまちなかの集客力・回遊性の向上に寄与



2 「高松地区かわまちづくり」エリア 整備の基本方針

(1) 「輪」から「環」へ新たな水と緑のネットワークづくり

中心市街地と烏川左岸を結ぶ回遊ルート(輪)は市街化の進展した城址地区における歴史・文化・自然のネットワークの形成を図るものであり、左岸の烏川緑地においては主に散策や憩いの場としての静的なレクリエーション利用の場としての整備が行われてきた。

これに対し右岸は、その特性である広い高水敷を活用したスポーツやイベント等のアクティビティの高い動的な利用が図られることから、新たに左岸と右岸を結び、河川のスケールに合わせた大きな回遊ルート(環)を設定し、烏川の持つポテンシャルを最大限に活かした施策の展開を図る。市民の日常的な身近な利用から広域来訪者を対象としたレクリエーション利用、あるいは都市的な活用から自然性の高い利用まで利用者の多様なニーズに対応することにより、一層の利用促進を図る。

(2) <整備と活用の基本方針>

① 烏川左岸の特性を活かした利用の推進

○左岸:城址地区と連携した眺望のある身近な親水空間としての利活用

展望レストハウス、オープンカフェ、親水護岸、野外コンサート、イベントなど

3 「高松地区かわまちづくり」エリアの施策概要

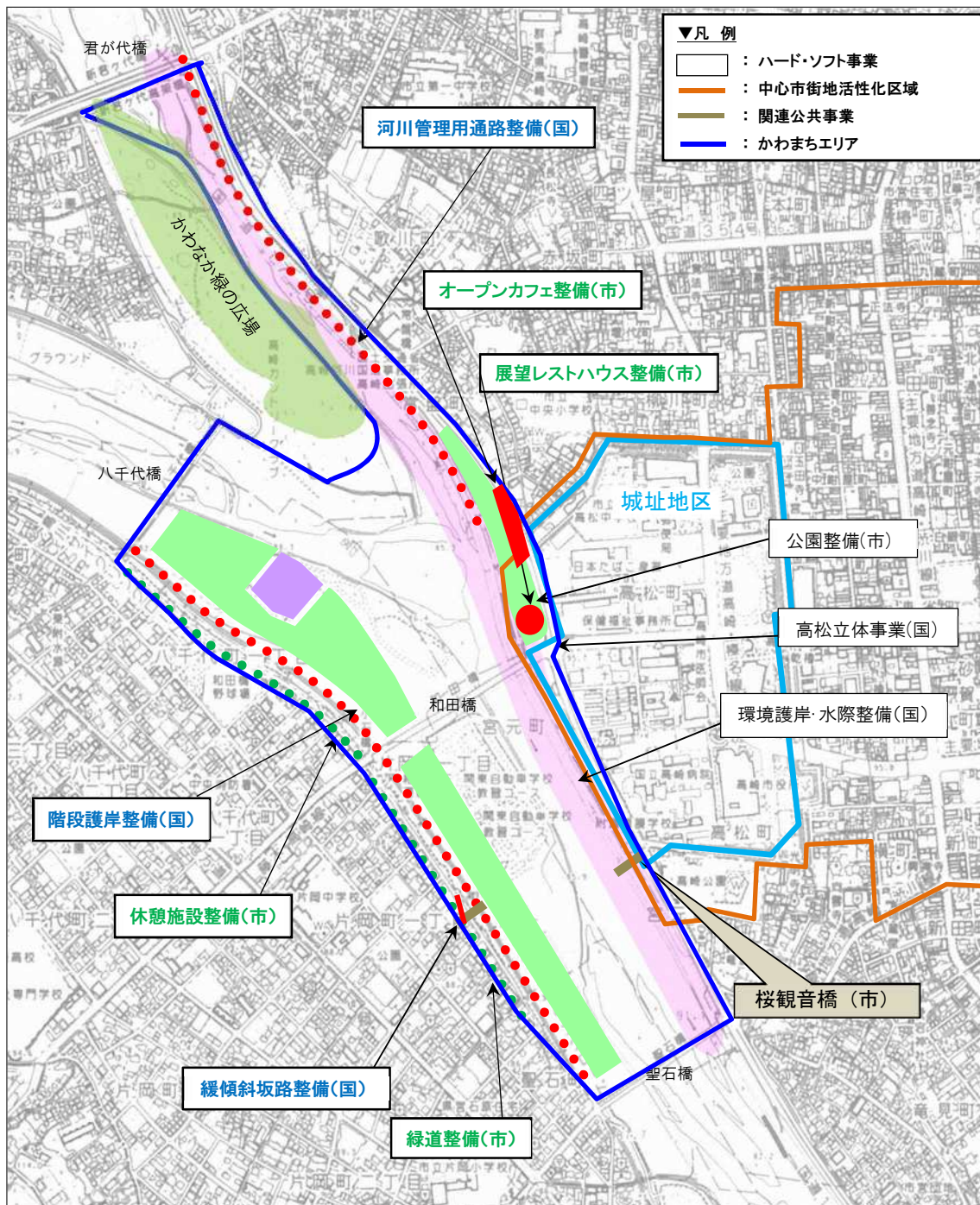
(1) 水辺空間を活用したイベント行事における活用

○展望レストハウス → 烏川交流・修景ゾーン（ハード事業）

・烏川から一段上がった国道17号高松立体切り回し跡地について、中心市街地や国道17号から訪れる利用者のエントランスゾーンとして、また、公園整備による烏川を若干見下ろし雄大な河川景観を享受できる休憩場とする。

○オープンカフェ → 水辺のふれあい体験ゾーン（ソフト事業）

・眺望のある開放的な空間を活用し、オープンカフェやキッチンカー等による飲食サービスを行い城址地区と連携し賑わいを創出する。合わせて、地産地消による高崎産フルーツなどの拡大を図るため、農産物直売などの「市場」を開催する。



■施策展開図

4 「高松地区かわまちづくり」エリアの施設概要

(1) 所在地 高崎市高松町地内

(2) 概要

ア 施設規模(参考) 展望レストハウス 床面積 約 400 m² (2階建想定)
オープンカフェ 敷地面積 約 600 m² (想定)

イ 施設の設置目的

新たに高崎産フルーツなどを主とする展望レストハウスの整備とオープンカフェを実施することにより、水辺の魅力や利便性を向上させ、中心市街地との連携強化を図るとともに、高崎産フルーツなど高崎の食文化の更なるブランド化の推進のため、「高松地区かわまちづくり」エリアからそれらを県内外へ大いにPRし、展望レストハウスがその拠点施設として機能するよう整備・展開していくことで、来訪者の増加を目指す。

ウ 主要施設の構成

展望レストハウス、オープンカフェ

エ 都市計画上の位置づけ

展望レストハウス :都市計画区域、市街化区域、商業地域(400/80)

オープンカフェ :都市計画区域、市街化調整区域、

オ 接道状況:南 側・・・主要地方道藤木・高崎線
東 側・・・国道 17 号線

(3) インフラの整備状況と整備方針

① 上水道

給水設備は公園内に設置済。

展望レストハウス、オープンカフェにおいても、既存設備を利用し、必要な設備配置して供給します。

② 下水道(汚水、雨水)

排水設備は公園内に設置済。

オープンカフェについては既存トイレを使用し、展望レストハウスについては、既存設備へ接続して排水します。



「高松地区かわまちづくり」配置図

展望レストハウス、オープンカフェ配置検討案

